

白山ふるさと文学賞

第二回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈母へのおもいに関する作文〉

小学生高学年の部 優秀賞

## 母への思い

北陽小学校六年

まつもと 松本

ゆうが 悠河

受賞の言葉

この「母への思い」という作文で、ぼくはふだん言わない事や、言えなかった事を書きました。

最初は、母にいやな思いをもっていたけど、仲が良くなれたらいいなと思って、いろいろ考えました。

母からいつも言われることも、いやだと思わずに聞こうと思いました。この作文を書いたからは、少し素直になれたように思います。

ぼくは、母の顔が二つあると思います。母に対する思いも二つあります。

まず、母が優しいときやふつうのときです。このときは、「いつもありがとう」と思います。これは良い思いです。

もう一つは、イライラしているときです。それはおこっているときです。そのときのぼくの思いは「うるさい」「うざい」などです。これは良くない思いです。でも、この思いの方が多いです。だからよくケンカをします。自分も一言余計なときがあります。でも、いろいろ言われてイライラします。それがまた次のケンカにつながります。でも、そのケンカは悪くはないと思います。自分の思っていることを伝えるからです。たまに、言っただけいけないことも言ってしまう。ケンカをしすぎるのも良くないと思いますが、「ありがとう」と言うことはあまりありません。だから、母とはあまり仲が良くありません。家では「お母さん」とは言わずに「母さん」と呼んでいます。ケンカや言い合いをしているときには、「おまえ」と言ってしまうこともあります。

「ありがとう」とか良い思いをもっても、あまり口に出していません。その思いを口に出して伝えると何となくお互い仲良くなれるのに……。ケンカをしないようにしていると、楽で楽しいから得だと思えます。ケンカをしないで楽に過ごすにはどうしたらいいか作戦を考えました。

まず、もしイライラするようなことを言われても、すぐに言い返したりしない。そうしたらケンカをしなくなると思います。そして「ラク」になると思います。

次に、文句を言ってしまうからそれを直します。そして「ラクで楽しい」にします。

母との思いではいっぱいあります。その中でも、心に残っているのは、色々なところに連れていってもらったことです。やっぱり、こういう楽しいことの方がいいです。それを作戦で、できるようにします。

最近、文句を言わず、ケンカもしないようにしています。だから、

関係は良くなってきていると思います。「ラク」で「楽しい」ときが増えてきます。自分の思いも「キライ」などの良くない思いより良い思いの方が多くなったと思います。この方がすごく楽しいし、おこられなくて、イライラしなくてケンカをすることがなくなると思います。これを目標にします。

今は、自分の思ったことや、気がついて教えてあげたいことを工夫して言います。普通にそのまま言うのと「うるさい」とか「ほっといて」とか言われます。だから、おこらせないように、言葉にトゲがないように言います。そうしたら「うるさい」とは言われずに、「そうだね」「分かった」と聞いてもらえるようになります。自分で、どうすればしつかり聞いてもらえるか、考えて言えばよいことを見つけました。

自分で考えた作戦を使って「ラク」で「楽しく」します。これから、この作戦を続けます。

